

奈良新卒応援ハローワーク通信

第7号 令和3年2月17日

今年度3社目！奈良県のユースエール認定企業が増えました

令和3年2月、奈良県奈良市の「株式会社アスカ電工」がユースエール認定企業として認定されました。奈良県では、今年度3社目の認定となり、県内では現在9社の企業がユースエール認定されています。

奈良労働局では、令和3年2月9日に株式会社アスカ電工の代表取締役の和田社長にお越しいたごき、奈良労働局長によるユースエール認定書の交付式を行いました。

認定証交付式終了後、和田さんに、「電気工事のスペシャリストを育てたい」という熱いお気持ちを伺いました。

*ユースエールとは、若者の採用・育成に積極的で若者の雇用管理が優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。



認定証交付式

明るい光を灯したときの充実感

『株式会社アスカ電工』は、奈良市にある電気設備工事業の会社です。ビルや工場、店舗等で高圧、低圧を問わず、電気工事を行います。仕事は民間企業、官公庁、大手サブコンから請け負っています。

電気工事を行うには、各種国家資格の保有が必要です。資格の種類によっては、一定期間の実務経験が求められるものもあり、細かい作業などもあるため、技術もすぐに身につくものではありません。

保有する資格によって、従事できる工事の範囲が異なり、第二種電気工事士が従事できるのは、《一般住宅や小規模な店舗・事業所などの600ボルト以下で受電する設備の工事》、第一種電気工事士の資格を取得すると、《第二種の範囲と最大電力500キロワット未満の工場、ビルなどの工事》に従事できるようになります。

電気工事の魅力は、「明るい光を灯したときの充実感。照明が点灯して、お客さんが喜んでくれるときが、うれしいです。今でも初めて作業した現場の照明が点灯したときの充実感を覚えています」と和田さんは話してくれました。



仕事の様子



会社外観

株式会社 アスカ電工

<http://www.asukadenko.co.jp>

事業内容

ビル、工場、店舗等の電気設備工事（一般内線工事）

本社所在地

奈良県奈良市六条2丁目20番35号

資格取得をサポートします

未経験者が入社した場合、まずは第二種電気工事士の資格取得を目指します。資格を取得するまでは、電気工事をする事ができないため、先輩社員に同行し、材料や道具の準備など作業の補助を行います。

資格取得に向けては、研修費用を会社が負担して、大手サブコンの研修に積極的に参加します。資格取得のサポートとして、仕事が終わったあと、先輩社員が勉強を教えることもあります。教材なども会社負担で準備し、資格取得に向けて会社全体でサポートしています。その結果、電気設備工事の知識や経験がなかった方も第二種電気工事士の資格を取得してきました。

アスカ電工では、第二種電気工事士の資格取得後は、実務経験を積み、3年程度で第二種電気工事士の資格でできる現場を任せています。5年経過後までには、第一種電気工事士の資格取得を目指します。ビルや工場などの大規模建築物の高圧の電気工事を行うため、第一種電気工事士の資格取得をすれば、仕事の幅が大きく広がります。



仕事の様子

学ぶ意欲がステップアップにつながります

資格試験での技能試験と実務での作業とでは、扱うものの規模などが全く異なり、作業手順なども工夫が必要です。そのため、実務経験があっても、第一種電気工事士の資格取得には苦勞する方もいるそうです。

第二種電気工事士の資格取得後の学ぶ意欲がその後の成長に大きく影響すると和田さんは話してくれました。仕事の合間の休憩時間や仕事が終わった後の時間を、自分の力を伸ばす時間と捉え、作業内容を振り返り、勉強する社員は、技術の習得や資格取得も比較的早いそうです。

「現在8年目で、第一種電気工事士の資格を取得し、昨年からは現場を任せている社員がいます。彼は電気工事未経験で、入社当初は仕事がなかなかうまくいきませんでした。しかし、資格試験の勉強にも積極的に取り組み、手に職をつけたい、と学ぶ意欲がとても高く、3年目ごろからメキメキと成長しました。」と成長を嬉しそうに教えてくれました。

「資格取得への意欲を高めてもらうために、資格取得後、まずは一度現場を任せています。失敗してしまうこともありますが、こんな仕事ができるようになった、とさらなる技術の習得への意欲が上がります。社員が自信をもつきっかけにもなっているように感じます。」

安全に作業するために

株式会社アスカ電工の勤務時間は8時から18時までで、休憩時間は約160分あります。この勤務時間と休憩時間は、安全に作業をするために定めているそうです。

「8時～18時という、長いと感じられるかもしれませんが、お昼の1時間休憩に加えて、約1時間ごとに10分程度の休憩を取るよう指示しています。特に夏場は、熱中症などの危険性もあるので、しんどくなる前に休憩をとるよう指導をしています。また休憩等の合間を利用して、作業についてわからないことを質問して、疑問を解消するためにも役立っています。」

休日は、日曜日と祝日、そして昨年からは月1回土曜日に休みを増やしました。会社カレンダーで休みの土曜日を設定していますが、業務の関係で出勤した場合などは、別の日に振替休日を取れるようにするなど、仕事を滞らせずに休める体制づくりに励んでいます。

有給休暇については、令和元年度の平均取得日数が12日あります。現場と現場の合間などの閑散期に取る社員が多いそうです。運動会シーズンなどに多くの社員が休みを取ると、「うちの会社の社員には、こんなにたくさんの子供がいるんだなあ、とうれしく感じます。」と和田さんは話してくれました。

電気工事のスペシャリストに

新しく入社した社員の教育について、工夫していることを和田さんに尋ねると、「丁寧に」そして、「言葉をかけること」と教えてくれました。

「私が働き始めたころは、仕事は『見て覚えろ』『見てたらわかる』とよく言われたものです。もちろん見て、自ら学ぶことも必要です。しかし、今教育を担当する社員には、見て学ぶだけではなく、言葉で説明することを意識するようにお願いしています。」

電気工事の仕事は、複数人で仕事をするので、協調性も大切です。また、現場を任されるようになると、他の作業員に指示することも多くなります。技術を磨くことはもちろん重要ですが、次のステップとして、人に仕事を指示する段取りや話し方を覚えて、ようやく一人前と言えるそうです。

「電気は生活に欠かせません。今後も必要とされる仕事である電気工事で“手に職をつける”ことを目指して働いてみませんか。電気工事の資格やスキルは自宅でもけっこう役に立ちますよ」と和田さんからメッセージをいただきました。



仕事の様子